

24 も背が^せ高く^{ちから}て、力もとても強いのです」

25 「では、その男を^よ呼べ^よ1！」

26 大男が王様の^{おうさま}所^{ところ}へ来^{おうさま}ました。王様は大男に「すぐ大理^{だいり}

27 石^{せき}を取りに^と行^とけ^と2」と言いました。

28 大男は白い鳥^{とり}を^つ連れて南の方^{だいりせき}へ大理石^とを取りに行きま

29 した。町はとても遠^{とお}くて、大変でした。大男は19日歩いて

30 てから、町に着きました。そして、町の人たちから大きな

31 大理石^{だいりせき}を3つもらって、その重い大理石^{だいりせき}を背^せ中に^{なか}乗せて運

32 びました。大理石^{だいりせき}はとても重^{おも}いです。大男は30日歩いて、

33 王様の町^{おうさま}に帰^{だいりせき}りました。長い長い道^{ちが}でした。重い大理石^{おも}を

34 持^{つか}って歩^あきましたから、大男はとても疲^{つか}れていましたが、

35 王様^{おうさま}は休^{やす}んでもいいとは言^いいませんでした。

36 王様^{おうさま}は「これからすぐ大理石^{だいりせき}の塔^{とう}を^{つく}れ^よ3！」と言^いまし

37 た。

38 大男は毎日毎日、大理石^{だいりせき}を切^きって^つ積^つみました4。だんだ

39 ん塔^{とう}が高^{たか}くなりました。大男の肩^{かた}には、いつもあの白い鳥^{とり}

40 がいました。大男は仕事をしながら白い鳥^{とり}に言^いました。

41 「鳥^{とり}さん、お前^{なみだ}はどうすれば^{なが}涙^{なみだ}を流^{なが}すんだ？ 涙^{なみだ}を流^{なが}さ

42 ないと王女^{おうじよ}に^{もど}戻^{わたし}れないよ。私^{わたし}は、早^{かえ}くお前^{かえ}を返^{かえ}してあげ

43 たいんだ」

44 白い鳥^{とり}はいつも静^{しず}かに大男の話^{はなし}を聞^きくだけでした。涙^{なみだ}

45 を流^{なが}したことはありませんでした。

46 大男は夜も寝^ねないで働^{はたら}きました。町の人^{ひと}達が、寝^ねる前^{まえ}

47 に窓^{まど}を開^あけると塔^{とう}の上^{うへ}にいつも明^あかり^{あかり}5が見^みえました。

48 大男は大理石^{だいりせき}を全部^{ぜんぶ}使^{つか}いました。塔^{とう}は町^{まち}の中^{なか}でいちばん

¹Imperatief van よぶ

²Ook dit is een imperatief.

³Imperatief van つくる

⁴つむ 'opstapelen'

⁵'licht'